

令和元年度 第2回さいたま市食育推進協議会 会議録

◎ 日時 令和2年1月30日(木) 14時00分～15時30分

◎ 場所 さいたま市保健所 第1会議室

◎ 出席者

(委員) 田中委員(会長)、若杉委員、金沢委員、秋山委員、加藤委員、湊委員、鹿島委員、佐藤委員、小澤委員、溝口委員、江崎委員、中川委員

(職員) 保健福祉局：青木理事

保健部：佐藤部長、今野副理事

健康増進課(事務局)：星野課長、橋詰課長補佐、大久保主任、河野主事

いきいき長寿推進課：相馬主幹 保育課：前田栄養士 農業政策課：坂口主事

西区役所保健センター：池田所長補佐

(傍聴人) なし

◎ 欠席者

(委員) 吉田委員、磯部委員、野口委員

◎ 資料

(事前配付)

- ・次第
- ・さいたま市食育推進協議会設置要綱、運営要領
- ・さいたま市食育推進協議会委員名簿、(裏面に)職員名簿
- ・資料1 さいたま市の食育取組状況(平成30年度)〇の数・割合
- ・資料2 令和元年度の食育関連事業(実績)
- ・資料3 令和元年度第3回さいたま市インターネット市民意識調査【調査報告書】より抜粋
- ・資料4 さいたま市食育ナビ アクセス数の推移
- ・資料5 高齢者を対象とした食育について
- ・資料6 令和2年度の食育関連事業(案)
- ・資料7 次期食育推進計画について
- ・資料8 第4次食育推進基本計画の作成に向けた進め方(案)

(当日配付)

- ・座席表
- ・さいたま市の食育取組状況(平成30年度)
- ・さいたま市食事バランスガイド3～5歳児向け 活用マニュアル
- ・みんなの食育白書

- ・「食育」ってどんないいことがあるの？
- ・朝ごはんを食べよう強化月間リーフレット
- ・令和2年度食育ポスター候補作品 投票用紙
- ・さいたま市乳幼児期における食育取組事例集（案）
- ・さいたま市アレルギー疾患対応相談のご案内
- ・第8回日本食育学会学術大会チラシ
- ・適塩ランチメニュー・商品販売のお知らせ
- ・食育クリアファイル

◎ 議事概要

1 開会

- ・事務局より、資料・配付物の確認、欠席者報告、職員紹介、議事録公開の確認

2 議事

(1) 第3次さいたま市食育推進計画の進行管理について

- ・資料1 さいたま市の食育取組状況（平成30年度）〇の数・割合
- ・資料2 令和元年度の食育関連事業（実績）
- ・資料3 令和元年度第3回さいたま市インターネット市民意識調査【調査報告書】より抜粋
- ・資料4 さいたま市食育ナビ アクセス数の推移

事務局：（第3次さいたま市食育推進計画の進行管理について、資料に基づき説明）

●資料1、「さいたま市の食育取組状況（平成30年度）」（机上配付）

前回の協議会で田中会長から、食育取組状況の“目標 5つの「食べる」”の各項目に該当する取組の割合についてご質問をいただいた。まとめたものが資料1。

対象ライフステージは「青年期」「高齢期」が低い割合となっている。

●資料2

2) (3) 食生活改善普及運動 については、厚生労働省が実施するこの運動に合わせ、市報9月号に記事を掲載し、1日に350g以上の野菜をとることを呼びかけた。

3) (1) 朝食 については、前回の協議会で、「朝ごはんを食べよう強化月間リーフレット」について委員の皆様よりいただいた御意見に基づき作成した。朝食欠食の多い20～30歳代にアプローチするため、市内の公立保育園の全児童の保護者へ配布したほか、私立保育園、幼稚園、市立の小中高校等へ配布した。

4) (1) さいたま市食事バランスガイド3～5歳児向け については、リーフレットを増刷し、幼稚園、保育施設等へ配布した。また「活用マニュアル」の内容を改訂した。後日、幼稚園・保育園等へ配布予定。

●資料3

第3回インターネット市民意識調査において、朝食や野菜摂取に関する質問を行った。結果を踏まえ、引き続き、朝食や野菜摂取に関する情報の周知、庁内で連携した

取組を進めていく。

●資料4

ウェブサイト「さいたま市食育なび」のアクセス数は、昨年度に比べて大きく増加。市報への掲載頻度を増やしたこと、リーフレット等にQRコードを載せたことなどが要因と考えられる。レシピ検索が多く利用されている。

会 長：食事バランスガイド3～5歳児向けの活用マニュアルをこれから配るという話だが、活用についての研修会は行うのか。

事務局：活用マニュアルは、リーフレットを活用するために、保育園や幼稚園の職員が参考にするためのものだが、研修会は今のところ予定はしていない。

(2) 高齢者を対象とした食育について

・資料5 高齢者を対象とした食育について

事務局：議事1で説明したとおり、高齢者を対象とした食育の取組は多いとは言えない状況である。本市の高齢化率は年々増加しており、高齢者の低栄養を予防するためにも、今後の取組を検討する必要がある。まずは、高齢者を対象とした食育の現状や課題について、情報共有したい。

いきいき長寿推進課：(高齢者を対象とした食育について、資料に基づき説明)

地域包括ケアシステムとは、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制の構築を実現するもの。

さいたま市の人口は、令和2年1月1日現在で1,314,146人、高齢化率は22.9%。団塊世代が全て後期高齢者となる2025年には23.8%に達する見込み。全国平均は、2018年10月1日現在で28.1%。さいたま市は、全国と比較して団塊世代(昭和22～24年生まれ)が少なく、団塊Jr.世代(昭和46～49年生まれ)が多い。団塊Jr.世代が75歳になる令和32年度(2050年)は全国よりも高齢化率が高くなると推測ができる。

さいたま市の要介護認定率、認知症有病率は、75歳以降急激に増加している。平成29年9月末現在では、平成26年9月末現在と比較し、75歳以上の後期高齢者では要支援・要介護認定率が低下しており、介護予防等の効果の可能性が考えられる。

ライフステージと栄養の関係を見ると、20歳代の女性のやせはクローズアップされているが、75歳以上も低栄養症候群と言い、やせていることが課題。

体重が一定だと仮定すると、加齢により身長が縮み、BMIが増加する。年齢により、死亡率でみた至適BMIは異なり、70歳以上の至適BMIは22.5～27.4なので、80歳でBMI27.3は高く感じるが、死亡率で考えると適正。

さいたま市ヘルスプラン21(第2次)中間評価報告書より、70歳代から80歳代でBMI18.5以下の割合が2倍になっている。79歳以下の方へ栄養・口腔指導を行うと

フレイル予防効果が大きいと考えられる。

フレイルの診断は5項目中3項目当てはまるとフレイル。1～2項目ならプレフレイル。65歳まではメタボや過栄養が課題となっており予防が必要。前期高齢者（65～74歳）は過栄養と低栄養が混在しており個別対応が必要。75歳以上の後期高齢者の多くは低栄養、フレイルが課題であり、予防することが介護予防につながっていく。

平成28年国民生活基礎調査より、介護が必要になった原因の1位は認知症、2位は脳血管疾患、3位は高齢による衰弱（フレイル）。フレイルは適切な介入により状態が改善すると言われている。介護予防の3原則①運動、②口腔ケアを含めた栄養、③社会参加が重要。さいたま市でも介護予防の3原則を取り入れた「健口教室」「健口づくり交流会」を行っている。

「地域リハビリテーション活動支援事業」は、地域における介護予防の取組を機能強化するため、地域ケア会議や住民運営の通いの場等へ、リハビリテーション専門職等が出向いて指導することを促進していくもの。さいたま市では、埼玉県栄養士会へ委託しており、管理栄養士が自治会などへ出向いて、参加者が希望する内容について講義をしている。

事業を評価するための取組として、今年度 JAGES（日本老年学的評価研究プロジェクト）という、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的とした研究プロジェクトに参画している。「健康と暮らしの調査」というアンケート調査を実施している。さいたま市は地域包括支援センターが27か所あり、結果を27圏域で比較もできる。

他市町村でアンケート結果を分析した例を紹介する。調査時点で抑うつ傾向ではなかった高齢者4万人を追跡し、「人と一緒に食事をする（＝共食）」か「一人で食事をする（＝孤食）」かで、3年後の抑うつ傾向への影響をみた。孤食の人の方が、男性（独居）は2.7倍、女性では1.4倍程度、抑うつ傾向へ至りやすいという結果が出た。さいたま市でも、市民の状況がわかってくると思うので、施策に活かしていきたい。

会 長：ただいまの事務局・関係課の説明について、ご質問、ご意見などいかがか。

若杉委員：とても興味深い取組だと思う。公民館等での栄養士の説明などは、さいたま市でもいろいろな区があるが、こっちで実施したいというような希望を市にお願いすると、このような教室ができるのか。

いきいき長寿推進課：現在行っている健康教室は、一つの区で1コースという形で実施している。会場は、区役所や公民館など。市が栄養士会、歯科衛生士会と委託契約を結び、各区の事業として実施してもらっている。

会 長：栄養士会の方で何かあるか。

加藤委員：健康教室は、各区の代表の方とそれぞれに打ち合わせをして実施していると聞いている。さいたま市として10区あると、それなりに特徴があるので、それに合うように、どのように進めていくかを話し合っていると聞いている。

（3）令和2年度の食育関連事業について

・資料6 令和2年度の食育関連事業（案）

事務局：（次期食育推進計画について、資料に基づき説明）

●2）5つの「食べる」の推進 （1）食育月間 ○ポスター

食育の目標の3番目、「確かな目をもって」食べる”が令和2年度の重点目標。「食の安全のための知識を身につけ、食品を選び、食べる。」という内容。食中毒予防や、食品表示を確認すること、非常時に備えることなどが含まれる。

令和2年度の重点目標「確かな目をもって食べる」と、小・中学生が描いた絵をデザインしたポスターを作成し、保育施設、教育機関、公共施設等へ配布予定。

本日は、小学生が描いた候補作品4点の中から、ポスターに採用する作品を決定したい。今年度のポスターと同様、絵の右側に「毎年6月は食育月間、毎月19日は食育の日」、下部に重点目標「確かな目をもって食べる」を入れる。後ほど、委員の皆様にご投票していただき、多数決で採用作品を決定したい。

●3）重点プロジェクトの推進 （1）朝食 「毎年10月は朝ごはんを食べよう強化月間」

「食育」ってどんないいことがあるの？」（机上配布）9～13ページに、朝食を毎日食べるとどんないいことがあるのか、日本人を対象とした研究からわかったこと、根拠が紹介されている。14～18ページには、栄養バランスに配慮した食生活にはどんないいことがあるのか、根拠とともに掲載されている。このように、朝食や栄養バランスと健康との関係について、根拠に基づいた情報発信が大切である。加えて、行政と関係機関・関係団体との連携も重要である。

「みんなの食育白書」（机上配布）6ページ 足立区の事例「住んでいるだけでおのずと健康になれるまちづくり」の写真是、地元スーパーと連携し、のぼり旗を設置した様子。また、子供の頃から野菜を食べる習慣を身につけられるよう、幼稚園・保育所、小・中学校で「ひと口目は野菜から」の声かけ運動等を実施しているほか、飲食店、八百屋、民間企業、JAをはじめとした団体等とも連携し、子供や30歳代男性の野菜摂取量が年々増加している。

資料6に記載のとおり、来年度は、ヨーロッパ野菜を使用したレシピを、さいたまヨーロッパ野菜研究会に協力いただき考案し、リーフレットを作成する予定。目的は、朝食を食べる市民の増加、朝食で野菜を食べる市民の増加を図ること。ヨーロッパ野菜で興味を引き、おいしそうな料理で食べる意欲を高め、簡単なレシピで実践につなげることがねらいである。委員の皆様には、魅力的なリーフレットにするための工夫、効果的な周知・啓発方法など、ご意見・ご提案をいただきたい。

会 長：まず、ポスター候補作品の投票を行いたい。ポスターについて、ご質問、ご意見などいかがか。

会 長：「確かな目」ということをポイントに置いたポスターということによいか。

事務局：はい。

金沢委員：コンセプトが食中毒なのか。

会 長：肉を生で食べないというのは、少し前に食中毒についていろいろあったが、さいたま市でも生肉での食中毒はあったのか。全部「肉に火を通して」とかいてある。

事務局：食中毒は把握していない。小・中学生に絵を募集する際には、来年度は“「確かな目をもって」食べる”をテーマにポスターを作るということは伝えてあるが、「確かな目」以外にも“さいたま市5つの「食べる」”どのテーマで描いてもいいとしている。“「確かな目をもって」食べる”というテーマが難しく、食中毒予防、火をちゃんと通す、といったことをテーマに描かれるお子さんが多い。今回の候補作品も、そのような絵になったという状況である。

会 長：たまたまということか。

事務局：はい。

会 長：それでは、候補作品をご確認いただき、最もふさわしいと思う作品を選びましたら、投票用紙の番号に○をつけてください。

委 員：(投票用紙に記入)

事務局：(投票用紙を回収、集計) 集計結果 ①3票、②6票、③2票、④1票

会 長：事務局は、②番の絵を採用し、令和2年度の食育ポスターを作成するように。

会 長：次に、令和2年度の食育関連事業について協議したい。特に、新たな取組である、ヨーロッパ野菜を使用したレシピの考案について、委員の皆様から、ご意見、ご提案をいただきたいと思う。

会 長：ヨーロッパ野菜は種類がたくさんあるのか。

事務局：資料6の3ページに掲載している。

会 長：10種類か。

事務局：もう少しいろいろな種類があると思うが、資料で取り上げられているのは10種類。

会 長：今見て、この料理がいいのではというのは難しいかもしれないが、皆様の経験の中で、試してみてもということがあればお知らせいただきたい。

金沢委員：私は割と使っている。岩槻の地場産のものを売っているところに時々置いてある。縦に切って普通に食べればおいしいとか、色のついた野菜を薄く切ってサラダにするとか、カリフローレはカリフラワーと同じように使えとか、アピールするのであれば、普通の野菜に似ていて、どういうふうに食べるとおいしいとか、これは煮込んだ方がいいとか、そういうヒントがあるといいかなと思う。

秋山委員：ヨーロッパ野菜を自分で扱ったことはほとんどなく、飲食店で食べるという経験ぐらいしかないが、朝食に取り入れるということで、目先が変わって目新しくていいかなという感想は持っている。ただ、使う際に、どこで購入できるかがもう少し明確であれば購入しやすいと思う。野菜の扱い方は、どこまでは食べることができて、皮は食べて大丈夫なのか、煮たらよいか生で大丈夫なのか、具体的にわかると参考にできると思うので、そういった詳しい情報を提供していただくとよいと思った。

加藤委員：買い物に行くと、よく見るヨーロッパ野菜と、あまり見ない、パンフレットに載っているだけのものがあると思う。店頭に行って、おもしろい野菜だなと思っても、そのときどうやって食べようってわからない、考えつかなくなったりするので、売り

場にレシピのヒントがあると、じゃあやってみようかなと思うのでは。リーフレットを作成するのもあるが、置く場所の検討もあってもおもしろいと思う。

湊委員：スーパーに行って出くわす野菜ではないので、資料にスープやシチューに適していると写真が出ているので、こんなものを使ったらいいのかなと思う。

日本食には一汁一菜というメニューで、具たくさん汁を使った料理がある。ここに紹介される野菜も、手に入らない時はアレンジしてもという言葉が添えてあるので、こういった野菜を使って、スープや味噌汁、そのスープもカレーやトマト味など味つけに変化をつけて、今日、明日、明後日というように活用していけば、忙しい朝も、いろいろな料理、味を楽しめる。ヨーロッパ野菜は添えたり、飾り付けにして活用してもいいのかなと思った。

鹿島委員：スーパーに行くと割と見かける。スーパーによっては、食べ方とか、こういう料理に適しているという一言が書いてあるので、こういうふうにして食べられるんだなとわかる。最近テレビで、さいたま市はヨーロッパ野菜がいろいろと作られていると取り上げられている。農家の方が見学会もやっていて、近県の人たちが見学に来ていろいろな料理方法を学んでるというのも、逆にこっちが勉強させられた。

浜松の農協でいろいろな珍しい野菜や果物を作っていて、レシピや説明文が棚にいっぱい置いてあり、誰でも持ってけるようになっていて。農協が売るところで、そういった配るものを置いておくと、いろいろな野菜の食べ方が勉強になると思うので、そういうところで配るのが一番いいのではないかなと思う。

佐藤委員：2～3点ぐらいしか見たことがないが、生野菜で食べるとか、茹でるとか、八宝菜的なあんかけみたいな感じで食べられるのではないかと思って見ていた。これから買って食べるようにしてみたい。

小澤委員：職場の方で、若い先生方に聞いてみると、初心者なので素通りしてしまうということだった。試食コーナーがあって、これは生で食べられるとか、油で炒めた方がいいとか、一回茹でてからじゃないと食べられないとか、くせが強いのかとか、そういうあたりを一回試食してみたいという意見があった。

溝口委員：うちの近くのスーパーには売っていないものがほとんどなので、やはり購入できる場所を知りたい。個人的には、具たくさん味噌汁とかを朝飲むと、その日一日体調がよかったりするので、スープの特集とか。あとは、お弁当を持って行くときに、スープジャーというのが流行っているので、それを使った時短料理とかがわかるとおもしろいかなと思った。

江崎委員：ちょっと見て回ったが、量が少ないのか、ちょっと価格が高い。ロマネスコ1個、原価は280円だけど58円くらい値下がりしても売れていない、というのがスーパーで見た現実。やっぱり高いから一般家庭では、朝食にっていうのはどうかなと思う。印象付けは大事なので、スーパーの売り場などに大きいパネルとか、足立区のようなのぼり旗とか、そういうものがあると少しは目につくかなと思った。リーフレットも、それを食べる時に、学校とかで渡すといいかなと思う。

中川委員：普通朝ごはんを食べていて野菜を食べている家庭にヨーロッパ野菜ということで

あれば受け入れやすいと思うが、そもそも朝ごはんを食べるけれど普通の野菜でも食べていない、あるいは朝ごはん自体を食べていないという人に対して、ヨーロッパ野菜のレシピを見せたところでどれだけのインパクトなり、アプローチができるのかというところが、不勉強でわかっていないけれども、そこはヨーロッパ野菜というネーミングだけで勝負できるものなのか。もしできるのであれば、例えばヨーロッパ野菜を食べることがブームになって、みんながそこから入っていくことであればいいと思う。そもそも朝ごはんを食べないというところに、何でヨーロッパ野菜だったら、今まで食べなかったのに食べられるようになるのっていうのが、メリットみたいなところがわかりやすいものであればいいかなと思う。

会長：ごもっともな意見で、ヨーロッパ野菜なんて聞いただけでハードルが高い感じがする。それがゆえに、珍しいということで、少し目を引かせるという意見があった。例えばヨーロッパ野菜コーナーみたいな形でボードを作るとか。ちょっと高いのではという話もあったので、ちょっと高級感をもったレシピも考えてみるというの必要かもしれない。あとは、量的に1回で食べ終わらなかつたら、一つの野菜でスープ、煮物、茹でる、炒める、というような、1日目、2日目というレシピの考え方もあるかもしれない。暑くなると、ちょっと流行ったスムージーは、少し高くなってしまふのかもしれないが、朝出かける前にこれ1杯、そうすると朝食の一つのきっかけになるという考えもあるかもしれない。レシピや、場面に応じた調理方法、こうすると栄養素が効率よく摂れるといったところも入ると、PRがもう少しうまく進むかもしれない、という意見だったと思う。

事務局は、意見を踏まえ、今後の事業を検討するように。

(4) 次期食育推進計画について

- ・資料7 次期食育推進計画について
- ・資料8 第4次食育推進基本計画の作成に向けた進め方(案)

事務局：(次期食育推進計画について、資料に基づき説明)

●資料7

健康増進課所管の3つの計画、「さいたま市ヘルスプラン21(第2次)」、「第3次さいたま市食育推進計画」、「さいたま市歯科口腔保健推進計画」は、いずれも令和5年3月末で計画期間が終了となる。各計画の次期計画を策定するにあたり、健康づくり、食育、歯科口腔保健は、それぞれが密接に関わることから、計画の取組の相乗効果と推進力を高めるため、3つの計画を統合する。

現時点では「(仮称)さいたま市きらきら健康希望^{ゆめ}プラン」(以下「(仮称)きらきらプラン」)とする。

「さいたま市ヘルスプラン21(第2次)」は、健康増進法に基づく市町村健康増進計画である。8つの分野にわかれており、食育や歯科口腔保健の内容も含まれる。そこで、「(仮称)きらきらプラン」は、次期「さいたま市ヘルスプラン21」をベース

とし、分野別の「歯・口腔の健康」を次期「さいたま市歯科口腔保健推進計画」、分野別の「栄養・食生活」を次期「さいたま市食育推進計画」に位置付ける。

「(仮称) きらきらプラン」の計画期間は、ベースとなる次期「ヘルスプラン」を国の「健康日本21」と合わせるため、令和5年度からの10年間とする方向で考えている。これまで、食育推進計画は5年間の計画だったが、「(仮称) きらきらプラン」は10年間という長期間の計画となるので、令和8年頃に中間評価を行う予定。

来年度は、目標指標の選定と、市民調査の質問項目の選定を行う予定。

なお、計画書は「(仮称) きらきらプラン」として1冊にまとめ、概要版パンフレットは3種類、3つの計画それぞれで作成する方向で考えている。

●資料8

国の第4次食育推進基本計画は、令和3年度からの計画となる。国の計画との整合性も考慮しながら、市の次期食育推進計画策定を進めていくことになる。

会長：いろいろな計画を国の方から作るよう言われて、各部署で、それぞれ横の繋がりの中で作られていると思う。健康増進計画が10年であるのは、長期計画のうちで、ライフステージに応じた健康評価をする、また、疾病の変化には、やはり10年ぐらいいみないとわからない。一方、食育推進基本計画は、10年では少し意識が薄れてしまう事や、生活習慣病の発現予防には、食生活の改善がその前にあるので、5年ごとに見直すことがよいのではないかというような感じであったかと思う。そういう意味では、食育も10年になることなので、中間評価を行うといったところで見直しや再認識化といったことが必要ではないかと思われる。すべて10年だからといって、全部のぼしてしまうと、それぞれ、歯科口腔保健推進計画の方も、かなり長いスパンの中で評価することになると思うので、3つ一緒になったがために、色が薄まってしまうということのないように、工夫していただければと思う。

3 その他

(1) さいたま市乳幼児期における食育取組事例集について

事務局：(さいたま市乳幼児期における食育取組事例集について、資料に基づき説明。)

この事例集は、保育園や幼稚園の食育の取組事例をまとめ、今後の各施設における食育の参考としていただくために作成する。事例の報告は、幼稚園・私立保育園は任意で73園、公立保育園は必須で全61園に報告いただいた。事例集は、さいたま市食育推進協議会の発行とし、補助金を活用して作成する。

ただ今の説明をもって、協議会の了承を得たものとさせていただきたい。

(2) さいたま市アレルギー疾患対応相談について

事務局：(さいたま市アレルギー疾患対応相談について、資料に基づき説明。)

この事業は、アレルギー疾患対策基本法等に基づき、今年度から開始した。子どものアレルギー疾患への対応について、医療機関の受診、食事や生活に関することなど、

小児アレルギーエデュケーターの看護師が相談に応じる。

会 長：ただいまの事務局の説明（１）（２）について、ご質問などいかがか。

（１）事例集について、ご承諾いただいたということによろしいか。

委 員：（異議なし）

（情報提供１）

会 長：2020年5月23日24日、東京家政学院大学千代田区三番町キャンパスで、日本食育学会学術大会を開催する。テーマは「つなぐ織りなす食の魅力 ～スポーツと和食文化～」。

2020オリンピックイヤーということで、スポーツを色に掲げている。特別公演Ⅰ「ジュニアスポーツと小児肥満」、特別公演Ⅱ「食育と和食文化の融合」、ランチョンセミナー「江戸の和食から学ぶ」は学会参加費がかかる。23日14:40～の公開講座「和食実演アトラクション」、23日15:50～のシンポジウム「和食が支えるジュニアスポーツ」は無料。シンポジウムでは、ジュニアアスリートの体と心と食という部分を取りあげる。また、プログラムで十分消化しきれなかった、何かもう少し話を聞きたいという方には、ラウンドテーブルディスカッションに参加していただき、スポーツと食育、和食文化と食育というテーマで話し合う場面もある。

（情報提供２）

事務局：計画書56ページ、「事業例）事業者の取組の支援」に、「さいたま商工会議所と行政が連携し、市民の食習慣の改善提案（減塩効果の高いもの等）に取り組む市内事業所を支援します」とある。「適塩ランチメニュー・商品販売のお知らせ」（机上配布）は、この取組のチラシである。商工会議所が、減塩のメニューや商品を、人間総合科学大学の学生と一緒に開発した。

会 長：2020年度から食事摂取基準2020年版が始まり、塩分が0.5gほど下がっているの
で、ちょうどいいのかもしれない。人間総合科学大学から何かあるか。

秋山委員：今年3年目になる。今後もおそらく継続していくと思う。ご都合がよろしければぜひお越しいただければと思う。

4 閉会

事務局：来年度の第1回協議会は7月に開催予定。

（閉会）